

# 人口の推移と推計

江別市の人口は、平成20年(2008年 10月1日現在、123,054人(住民基本台帳)、世帯数は52,902世帯(同)であり、市制が施行された昭和29年(1954年)の約3.6倍の人口と約8.7倍の世帯数を擁する都市へと発展し、今では全道都市(35市)の中では第9番目の都市に成長しました。

これは、本市が道都・札幌市の「ベッドタウン」としての機能に加え、生活都市・文教都市としての多面的な機能を担う調和のとれた街として発展してきたことによるものと考えられます。

しかし、急速な少子高齢化の進行や経済情勢の悪化を受け、江別市の人口は住民基本台帳上では平成17年(2005年 1月の124,274人をピークに微減傾向がみられます。

また、国勢調査における人口推移を見ると、平成12年(2000年)は123,877人であったものが、平成17年(2005年)は125,601人と伸び率は1.4%となるなど微増ではありますが、今後は人口の横ばいあるいは微減傾向となるものと考えられます。しかしながら、札幌圏に位置し、良好な住環境を有している本市においては、過去には社会経済情勢の変化を受け、急激な増加傾向が見られた時期もあったことから、価値観の変化や企業立地など、社会経済情勢の変化によっては増加に転じることも考えられます。

人口の年齢階層別構成割合をみると、全国・全道の傾向と同様に、年々老年人口(65歳以上)が増加し、年少人口(14歳以下)が減少しています。人口維持には、合計特殊出生率が2.08であることが必要とされていますが、本市は1.04(平成15年度～平成19年度推計値)と非常に低く、また、この数値は全国(1.31)・全道(1.19)の数値をいずれも下回っており、少子高齢化の状況は一層顕著になるものと見込まれます。

## ポイント!

第5次江別市総合計画基本構想では、政策的に人口を誘導する「目標推計人口」ではなく、各個別事業計画の基礎となる「計画基準人口」を構想年における想定人口として設定しています。

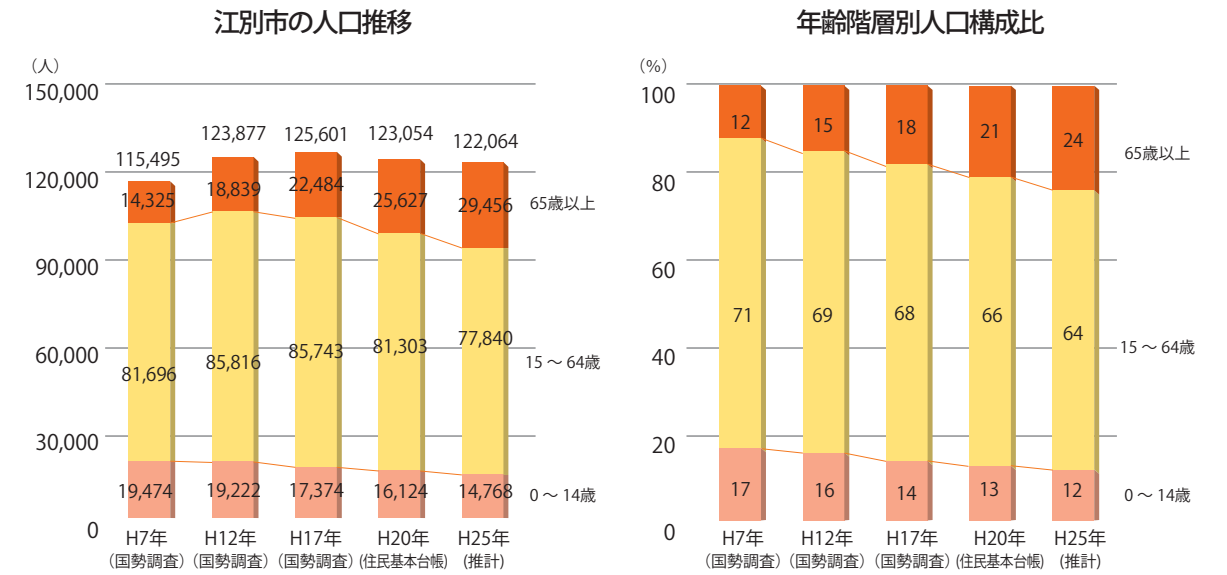
この想定人口は、「コーホート要因法」(注4)で推計した推計人口を基に、市街化区域内における未利用地での収容可能人口等を斟酌し設定したもので、「推計人口」とは別のものです。

### 用語解説

注4 コーホート要因法【cohort component method】

ある基準年次の男女、年齢別人口を出発点とし、これに仮定された女子の年齢別出生率男女、年齢別出生率(あるいは死亡率)、男女、年齢別人口移動率を適用して将来人口を計算する方法

## 人口と年齢階層別構成比の推移



## 江別市の人口ピラミッド推計

